

日 時	平成 30 年 3 月 14 日 (水) 午前 10 時 00 分～11 時 00 分
場 所	豊橋市役所 西館 4 階 災害対策本部室西側
出席者	別紙のとおり
欠席者	伊藤 友之、鈴木 衣江、永井 洋充
傍聴者	なし

1. 開会

2. 市民協働推進課長挨拶

(進行：荒木会長)

本日は過半数以上の委員が出席しているので、会議は成立している。今回の議事録の署名については、住吉委員と戸崎委員にお願いしたい。

3. 議題

男女共同参画行動計画「ハーモニープラン 2018-2022」の進捗状況、市の男女共同参画推進体制について説明。

(1) 平成 30 年度男女共同参画事業計画について

資料 1 により事務局が説明

委 員 L G B T について、その言葉がまだまだ理解されていない。事業計画に L G B T という言葉がでてきていないが。

事務局 ライフアップセミナーの中で、L G B T の啓発を目的とした講座の開催を予定している。

委 員 言葉はよく聞くが、内容まではよくわからない。いろいろな人がいるということがみんながわかればいいと思う。そのためにどうしたら良いかは難しいが。

委 員 女性再就職支援事業について、拡大ということで、求人情報なども提供と聞いたが職業安定所と、この事業のサポートとの違いはどう位置付けているのか。設楽町との女性交流事業について、男女共生フェスティバルへの参加も案としてあるということだが、それはいつまとまるのか。また、今年度 1 月にはお見えになったのか。男女共同参画啓発イベントについて、標語は中学生の課題にもなっているが、写真の応募は減少傾向にあると思うので、周知について工夫したほうが良いのでは。女性国内研修事業について、人材育成セミナーは受講者はもう決まっているのか。啓発用のパンフレットについて、昨年と同じものなのか、監修はどのように行われているのか。

事務局 女性の再就職支援事業について、職業紹介資格を持った業者に委託する予定で考えており、受講者が職安に出向くのではなく、こちら側から受講者に情報提供を行うことで効果があると考えている。設楽町との女性の交流事業について、1 月のフェスティバルには来られなかったと聞いている。新年度に入って最初の実行委員会までには設楽町と調整し、まとめていきたいと考えている。啓発イベントの周知について、より多くの方に知っていただく方法を考えていく。人材育成セミナーについては、来週の女性団体連絡会で決定する予定。啓発用パンフレットについて、中学生向け

は今年度新たに作成している。作成は市民協働推進課で情報収集しながら行っている。

委員 全体的なところで、女性向けの事業が多いのかな、という印象。まだ男女共同参画という言葉が知れ渡っていないのが現状で、こういった女性向けの事業が目立つのは当然だと思うが、事業をうたうときに、女性だけが主体となったものではないということも強調してほしい。例えばネットワークワーカーなど現時点で女性だけであれば、ゆくゆくは男性にも役割を担ってほしい。あらゆる事業に対する啓蒙について、興味のない人たちに対してどう告知するのか、というのが難しい。今年の男女共生フェスティバルにも参加したが、講演会の参加者が少ない。来ているのは高齢者。必要を感じて自ら出向いてくる人はまだ気持ちがあると思うが、必要を感じていない人たちに対して、あるべき姿を伝えていくツールが必要になってくるのでは。

事務局 過去からの事業名をそのまま引き継いでいるところもあるので、女性という言葉が多く出てきている。ネットワークワーカーは男性もいるが、これからももっと多くの方にセミナーに参加していただくことが必要だと思う。啓蒙活動について、これは大きな課題である。今回のフェスティバルでも実行委員会でも力を入れて広報活動をしていただいたが、なかなか結果がついてこないところがあるので、新年度の実行委員会の中で議論しながら進めていきたいと考えている。

委員 事業計画はもっと大きな項目でまとめたほうがわかりやすいと思う。事業内容は市民の方に浸透させるのが一番。啓発、情報発信に重きを置いた事業と、あとはイベントのようなもの。あとは事業を実施しながらPDCAサイクルに載せて検証しながら改善を加えるもの。また、交流事業などでは成果品のようなものが必要。どういう効果が生まれたのか。事業を行った経緯、その結果の見える化が必要。事業自体は単年度ですぐ効果が上がるようなものではないので、行っていく中で改善する方法を考えて欲しい。

委員 事業計画が結果として男女共同参画の趣旨を伴っていたのかどうかということの検証は必要である。報告もこれまでの資料の中でされてきているとは思いますが、延々とやりつづければ良いのではなく、どこかでメリハリをつける事業も必要ではないか。男女共同参画意識を高めるという点で、小中学校児童・生徒、保護者向けにパンフレットを作るということは重要。男女共同参画というものが社会の中でどういった意味を持つのか、という教育の内容だと思うが、こういったものを準備していかないと、結局市民の意識が上がらない。パンフレットの内容はどういうものか。子どもが一目見てわかる、というものを作成できるかどうかに興味がある。子どもたちが一目見て、男子も女子も差別がない社会が非常に重要だということがわかれば、市民に定着していく可能性が高いと思う。市職員に対する研修について、内容をわかる範囲で教えていただきたい。

事務局 市職員の研修について、今年度はLGBT等性的少数者への理解ということで行った。来年度についてはまだ決まっていないが、市役所全体で共通して知っておくべき内容をこれから詰めていきたい。

会長 ハーモニープランの意見の中で自衛隊職場での職場体験はやめて欲しい、との意見があるが、理由は何か書いてあったか。

事務局 平和の観点から、戦争と平和に自衛隊が結びつきやすいといったところの意見だった。

委員 職場体験先を選ぶのはどちらが。

事務局 原則生徒を選ぶ。

委員 必ずしも希望通りにはならない。

会長 企業側の受け入れ態勢も困難なところがある。

委員 今の子どもたちは働くということに関する情報があまり入らない。実際の現場を子どもたち

に見せることによって、職業意識を身につけてもらおうということで中学2年生を中心に行われている。

小中学生パンフレットについて実物を見せながら説明

委員 パンフレットは配るだけか。

事務局 校長会で配布し、授業等で活用していただくよう依頼。出前講座の際にも活用している。

委員 学校では多くの配布物がある。大変良いものなので、埋もれないよう、先生たちが一言言っていただけると良い。

事務局 出前講座では非常に良かったという意見も寄せられるので、しっかりと活用していきたい。

委員 小学校の道徳の授業で使ってくれれば良いが。

委員 校長先生の意識の問題。意識のある校長先生であれば積極的に活用される。

会長 最近の新聞で豊橋技術科学大学の男女共同参画に関する取組みが載っていた。何か一緒にできることがあればと思うが。

事務局 今年度、ネットワークとの協働事業として働く女性向けのプレゼン講座を実施した。それを足掛かりに今後広げていければ。

会長 学生とのフランクな交流の場があれば、もう少し広がるのでは。例えば高校生と大学生の交流など。

委員 フェスティバルは本当に人が少ない。今後は少子高齢化でますます人数は減ってくると思う。例えば子育て応援企業へ働きかけることや、既に参加していただいている技科大の内容を検討し、女性の学生と中高生との交流を考えるなど、まだまだ伸びしろがあると思う。市の推進体制について、市の機関と審議会など外部の繋がりを考え直すことも今後必要。市民レベルの活動がもう少し発信でき、審議会でも見ることができれば審議内容に深くかかわってくるのでは。

会長 女性の相談事業について、LINE相談の予定はあるか。

委員 LINE相談はからかいなどもあり、対応する側が大変。本来相談というものは生の声を届け、受け止めてそれに対する反応が基本。文字やSNSを使うということは、必要最低限にとどめるべき。学校ではLINEによって、誹謗中傷などトラブルが発生しておりその取扱いに先生たちが振り回されている。SNSによる相談は極力避けたほうが良い。リスクの方が高い。相談員の研修に講師として参加したことがあるが、相談員の力量はかなり上がってきている。相談員のメンタルヘルスの維持を考えた時に、年1回の研修だけでは困難ではないか。スーパーバイザーの配置などがあればもう少し中身の濃い相談事業となるので、検討していただきたい。

委員 市職員研修について、対象に学校の先生を含めていただきたい。以前からPTAの問題などを言っているが、現状を見ると男女共同参画の意識がないと思う。市民と密接にかかわってくる教師の方々に対し、こういった研修を行ってほしい。

事務局 必要に応じて声掛けはしている。

委員 女性再就職支援事業について、就労につなげる為に具体的にどうするのか。

事務局 今年度は相談と講座をそれぞれ単発で行っており、就労に繋がったかどうかの確認ができていなかったが、今回はそういった確認まで行う、ということで専門業者の力を借りながら進めていく。まずはこれまで実績のある業者と相談しながら進めてく中で、報告していきたい。

委員 推進体制について、わかりやすいと思うし、これだけの体制があればちゃんとしたものがで

きるだろうという期待感が持てるので、ぜひがんばっていただきたい。

会 長事務局では皆さんの意見を参考にしていきたいと思います。

平成30年 3月29日

議事録署名者

住吉 篤子

戸崎 史子

第3回豊橋市男女共同参画審議会 出席者名簿

No	氏名	選任区分	出欠
1	あらき ひとこ 荒木 仁子	豊橋商工会議所女性会元会長	○
2	あんどう はるき 安藤 春樹	公募	○
3	いしい しほ 石井 至穂	公募	○
4	いとう ともゆき 伊藤 友之	豊橋農業協同組合常務	×
5	きのした たかお 木之下 隆夫	愛知大学文学部教授	○
6	すずき きぬえ 鈴木 衣江	豊橋女性団体連絡会元副会長	×
7	すみよし あつこ 住吉 篤子	豊橋人権擁護委員	○
8	とさき ふみこ 戸崎 史子	公募	○
9	ながい ひろみつ 永井 洋充	豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会副会長	×

審議会出席人数 7 名

<事務局>

市民協働推進課 課 長 河合 幸子
主 幹 小久保 雅司
課長補佐 夏目 直美
主 査 菅沼 和也
主 事 姜 上